

# 兼江会ニュース No.300 記念号

兼江会 事務局

明けましておめでとうございます

皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます

お陰さまをもちまして、「兼江会ニュース」は本号にて第 300 号を迎えることができました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

今回は、特別号ということで、カラー印刷とし Web 会員の皆様にもご送付いたします。

本記念号にたくさんのご寄稿を頂き厚く御礼申し上げます。予算の関係で紙面に限りがあり、すべてのご投稿を掲載出来なかったことをお詫び申し上げます。

さて、昨年も色々な出来事がありました。

想定外と言われたドナルド・トランプ（70 オ）米国大統領の就任が ロシア、中国そして英国が離脱する EU を含め、今後の世界情勢に大きな影響を与えることになりそうです。お隣の朝鮮半島では、韓国のパク大統領の弾劾決議による政治的混乱と北朝鮮の核開発・相次ぐミサイル発射が、明日何が起こるか分からないという身近な脅威を増幅しています。

また、各地で続く IS のテロは許されない惨事を巻き起こし、それに大国や近隣諸国の思惑が絡んで貧困・難民問題の解決、宗教や教育等の基本的人権の遵守への対応の難しさを露呈しています。



カナダ ケベック St.ローレンス川からの日の出

オバマ大統領と安倍首相による相互訪問により、*No more Hiroshima, Remember Pearl Harbor* で象徴されたかつての敵対国は、真珠湾攻撃から 75 年を経て明日を拓く、「希望の同盟」を謳いました。寛容の心がもたらした、*the power of reconciliation* 「和解の力」が今も戦禍の終わらない地域に行き渡ることを祈りたいと思います。

明るいニュースとして、リオ五輪での史上最高の合計 41 個のメダル獲得は東京への期待を増したこと、またオートファジーの仕組みの解明でノーベル生理学・医学賞を受賞した大隅良典博士の真摯でひたむきな基礎科学への探求の思いが心に残りました。

恒例の年末懇親会が、東京、大阪、名古屋の各支部において開催されました。東京会場において、兼松の下嶋社長より平成 28 年度上期の業績等のご説明がありました（P.12,13,16,17 参照）。

また、懇親会等の写真が兼江会のホームページに掲載されていますので、皆さんの笑顔をご覧ください。

春ももうすぐです。皆様体調管理には十分ご留意頂き、元気な笑顔で OB・OG 会等でお目に掛かれればと思います。

次号の「兼江会ニュース」は第301号です。第 300 号で多数のご投稿を頂き繰り延べ掲載となりますので、ご投稿頂いた原稿が次号に掲載できない場合があります。ご了承頂きますようお願い申し上げます。 投稿の締切日は 3月24日(金) です。

「兼江会」 ◇ ファックス：03-5440-6507 「兼江会事務局宛」と明記願います。  
事務局 ◇ E メールアドレス： kengo\_kai2015@yahoo.co.jp

## 【1】 兼江会ニュース 300 号記念号

前兼江会 会長 井上 稔



「兼江会ニュース 300 号」発行、心からお祝い申し上げます。

高齢その他の理由で兼江会の懇親会にご出席出来ない会員方々にとって、この「ニュース」により、現役時代苦勞を共にした仲間の動静を知ることができるため大変喜ばれております。

私は、今回、個人的な理由により、16 年間勤めました 会長職 を辞任しました。兼江会の過去の歴史に関心をお持ちの新しい会員のため、16 年間の会長職を振り返ってみたい、と思います。

2000 年 6 月、当時の会長 中島豊太郎さん から、突然 会長職 を引き継ぐよう言われました。普通、会長職は、幹事 — 常任幹事 — 代表幹事 を経験してから就任するのが通例でしたが、私の場合、幹事就任後 1 年未満で 会長職 を引き受けねばなりませんでした。然も、中島さんと同時に 6 人の幹事から退任の表明がありました。

会長職を引き継ぐ際、中島さんから言われた言葉は、

「兼江会の灯を消すな！」ということでした。

当時、兼松、兼江会が如何なる状況にあったかは、此处で繰り返す必要もなく、会員の皆様良くご存知のことと存じます。そうした状況から現在の兼江会が立派に存在するのは、会員の皆様、幹事諸兄のご努力があったからであります。

幹事の仕事はボランティアであり、奉仕活動であります。幹事の皆様の積極的な仕事ぶりは本当に頭が下がります。私は、「兼江会ニュース」を受け取ると、兎も角、会員の皆様のご投稿から読み始めます。それほど、素晴らしい記事の連続です。

ご存知の如く、兼江会は会員数が減少しております。勿論、兼松の社員数が減少していることが最大の理由ですが、会員の皆様の現役時代の同僚で未加入の方々がおられましたら、是非勧誘願います。勿論、兼江会は優秀で、熱心な幹事さんの活躍で益々充実、発展してまいりますので、大いに宣伝して頂きたいと存じます。

今後とも、兼江会をよろしく。

## 【2】 兼江会ニュース 300 号記念号発行を迎えて

兼松株式会社

代表取締役社長 下嶋 政幸



新年明けましておめでとうございます。

そして、今回記念すべき兼江会ニュース第 300 号の発行、洵におめでとうございます。

事務局の皆さまのこれまでの並々ならぬご努力の賜物と、頭の下がる思いで一杯です。

兼江会ニュースは、現兼江会がその前身である百松会、社友会及び兼江会の 3 者が合流・発足して以来、今日まで 37 年強という長きに亘り会員相互の親睦活動状況や会員の動静に関する情報などを会員の皆様に広く提供して来られました。

私が兼江会ニュースに接するようになったのは、2006 年 6 月に取締役になってからの事でしたが、当時、配布される度にベテランの事務職の方から「読ませて欲しい。」と、頼まれていたことを思い出します。兼松と江商との合併も経験されていたであろうその方は、きっと色々な方のアシスタントもされて来られていたのでしょう、兼江会ニュースで報じられる会員の皆さまの動静に触れ、その当時のことを懐かしく思い出されていたのだと思います。

兼江会ニュースは、兼松を卒業された方々ばかりでなく、兼松で半生を過ごされて来られた方々にとっても、「兼松という絆」を運んでくれ、感じさせてくれるものなのでしょうね。

今回、兼江会ニュース 300 号記念号発行を迎えての寄稿依頼を頂戴した時、祝辞は勿論ですが、他にどのようなことに触れさせて頂こうか考えました。

心からお伝えしたかったこと、それは 1999 年の構造改革と 2013 年 11 月の復配に触れずには語れません。

兼松は 1997 年のアジア金融危機の煽りを受けたこともあり、1999 年の構造改革に入って行きました。その後も減損会計や低価法の導入、リーマンショックなど、幾つかの大きな波がありましたが、沢山の方々から多大なご支援とご協力を戴き、何とか 2013 年の復配に辿り着くことができました。その間、私どもは兼江会の皆さまと一緒にあってこれら幾多の波を乗り越えてきたと思っています。

あの構造改革を機に、兼松にも兼江会にも大きな変化がありました。特に、社員数が減ったことによる影響が最近になって大きく現れてきています。兼松の完全復活までにはもう少し時間が掛かるでしょう。

これからも、先達や諸先輩の偉業に敬意を払い、店祖兼松房治郎翁の創業趣意と志を未来に引き継いで行く、その思いに心を一つにして兼江会の皆さまと共に兼松の完全復活を図って行きたいと思っています。

最後に、兼江会の皆さまの益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げますとともに、兼江会ニュース 300 号記念号発行のお祝いの言葉とさせて頂きます。

“ 兼松なくして兼江会なし、兼江会なくして兼江会ニュースなし。未来へ繋げよう「兼松の絆」 ”

2017 年 1 月 吉日

## [3] 代表幹事寄稿

### 1. 1967 年 4 月 1 日の思い出

東京支部 瀧本 誠也



明けましておめでとうございます。

本年も、皆様には幸多き年となりますことを、心よりお祈りいたします。

さて、兼江会ニュースは 1979 年 12 月 1 日に第 1 号を発行して以来、本号で 300 号を迎えることになり、これを記念して本号は保存版にしようと考え、カラー印刷にいたしました。ただ、300 号記念号の発行を思い立ちましたのは、本年度の予算を確定した後でありますので、本年度の経費実績は予算を上回るものと予想しており、あらかじめ、お許しいただきたいと思います。

皆様ご承知の通り、兼松と江商の合併後はしばらく、旧兼松の OB 会である百松会、旧江商の OB 会である社友会、及び、兼松・江商の両社が合併した時点で在籍し、その後退職により加入した OB 会である兼江会の 3 つの OB 会が存在しておりました。

これらの 3 つの OB 会が 1979 年の 10 月 1 日で統合し、新たに「兼江会」として発足いたしました。以来、37 年間で 300 回の兼江会ニュースが発行されております。

現在まで絶えることなく続きましたのは、その間、兼江会事務に携わっていただいた幹事の皆様、及び、積極的に記事を投稿していただいた会員の皆様のご協力の賜物と感謝しております。今後とも兼江会の情報誌として発行し続けることが出来ますよう、引き続き会員の皆様方の積極的なご投稿をお願いいたします。

先に、兼松と江商の合併に触れましたが、合併期日は 1967 年 4 月 1 日（土曜）、兼松は今年で合併 50 周年を迎えられます。私は当時、兼松大阪支店総務部総務課に所属しておりましたので、商法（現在は会社法）上の合併事務に携わる業務を任されました。入社まもない若輩で、商法の知識も持たず、どう取り組むべきか大いに悩んだすえ、出身大学の法学部教授や、当時丸紅と東通が合併を経験しておりましたので、丸紅の経営企画室の I 室長にお会いすることを思い立ち、何とか提出期限ぎりぎりに合併覚書、合併契約書の原案を、上司の四宮久信常務（当時）に渡し終えたのを懐かしく思い起こします。

1967 年 4 月 1 日は私個人にとっても忘れられない日で、結婚式を行った日でもあります。仲人は上司の四宮久信さんをお願いしました。四宮さんは当日の午前中は、新入社員入社式と会社（兼松と江商の）合併式、午後には、我家の結婚（合併？）式の 3 つの式典に参加される予定でしたので、午前中の会社の式典が延び、午後の結婚式には間に合わないことも十分ありうると覚悟はしておりましたが、ぎりぎりに間に合いほっとしたものです。その上、結婚式では、会社の先輩から「ヒ（日）ヨシ、トコロ（所）ヨシ、シンプ（新婦）サラニヨシ、シカルニ、シンロウ（新郎）マアマア」という祝電があり、なんだ（？）と驚きましたが、我々夫婦も今年で結婚 50 周年を迎え、残念ながら私生活はこの祝電の状態が続いたまま今日に至っておりますので、この祝電も忘れることはできません。

年頭のご挨拶と兼江会ニュース 300 号記念号を祝し、あわせ、1967 年 4 月 1 日の思い出を報告させていただきました。



## 2. 兼江会ニュース 300 号 記念号 発刊を迎えて

大阪支部 影本 勲



とにかく偉大なことです。年 4 回（当初は毎月）の発行をこれ程長期に継続している同窓会誌は少ないのではないのでしょうか。

先ずは、歴代の編集担当諸氏の献身的かつ地道な尽力に深甚の感謝を表したい。加えて、デジタル化や紙面の充実等、兼江会ニュースを日々進化させてくれている現スタッフの弛まぬ努力にも頭の下がる思いである。

兼江会ニュースは、人生の最も充実した時期に同じ土俵で苦楽を共にした者同士の絆であり、その土俵への愛着と誇りの拠り所として貴重な役割を果たして来ており、将に全会員の唯一の接点である。また、魅力ある紙面作りは未加入者への PR ツールにもなり得ると期待している。

今日、300 号発刊を迎えてその歴史的重みと意義を改めて噛みしめるとともに、今後とも末永く継承して行くことが我々現会員の責務であるとの思いを強くする一方、将来的にその継承が危ぶまれる状況に直面しているとの危機感をも抱かざるを得ない。

言うまでもなく、兼江会ニュースは兼江会あつての兼江会ニュースであり、兼江会の存続がその大前提である。問題はその兼江会の会員が急速に減少し続けていることである。

勿論、会員数は基本的には兼松の従業員規模に制約されるが、そのことを考慮しても現時点での未加入 OB が相当数潜在しているものと推量される。

従って、当面は、OB にとっての兼江会の存在意義を如何に高め、入会の勧誘努力を如何に継続的に行うかが兼江会存続の鍵であり、引いては兼江会ニュース存続の鍵である。ぜひ会員の皆様のご助力、ご協力をお願いする次第です。

何れにしろ、300 号という意義深い年輪を刻んだ兼江会ニュースが、400 号、500 号へと脈々と受け継がれていくことを切に念じて止みません。

終わりに、この特集号の発刊に携わった編集委員の方々の労を労うとともに、ご協力頂いた多くの会員の皆様に心から感謝を申し上げたいと思います。

## 3. 伝 統

名古屋支部 田島 昇



ある日、トイレで同僚と「今度の支店長は・・・」と話しているところに名古屋支店に赴任して間もない橋本さん（元 KG 副社長：橋本弥平さん）が入ってこられた。橋本さん、用を足しながら涼しい顔で「君たちこれからボクのことは『支店長』でなくて『橋本さん』と呼んでくれたまえ。前のニューヨークでは社長だったけれど誰も『社長』なんて呼ばなかったよ。」と。

大学 4 年生の春、ボツボツ卒業後何処の会社に行こうかな？と考えていると、夕食後、繊維関係の仕事に就いていた父親が話しかけてきた。「就職先は何処を考えている？『兼松』はどうか。羊毛の輸入など大きな商社で仕事は厳しいけれど大変家族的で働きやすいそうだ。そうそう、オリンピックの金メダリスト清川さん（元 KG 社長、1932 年ロス・オリンピック 100m 背泳優勝）もいるらしいよ」と。

7 月初めに面接、身体検査。翌日に「採用」の電報を受け取った。

退職して、早 18 年。今更であるが、社内呼称のことが、何となく気になった。まずは「敬称」で、辞書を引いてみる。主なものは「君」、「様」、「さん」のよう。“人の名前に「さん」等をつけて呼ぶこと。敬愛や親愛の意を表す。目下の者にたいしては丁寧な言い方”とある。Google でも調べてみる。なるほど、新入社員が上司を「さん」づけで呼ぶのは、基本避けるべきと、ビジネスマナーをレクチャーするサイトでは謳っている。特別な社内ルールでもない限り「…部長」、「…課長」とよびかけるべきと。国際化が進んでいると言っても、日本企業の昔からの習わしを踏襲しているビジネスマンが大半というわけか。

兼松では、ニューヨーク帰りの橋本さんが特別だったというわけではなく、伝統的に昔から上下の関係なく「…さん」が多い気がした。小生も上司に肩書で呼びかけた記憶がない。昔から風通しの良い社風づくりのため？「さん」呼称が一般的だったのかも。

兼江会にもこの伝統が引き継がれていると思う。毎年開かれる「兼江会三支部拡大役員会」。会議室のドアを開けたとたん「やあ、田島さん遠方よりご苦労さん」と声を掛けられるといっぺんに気持ちが落ち着く。会議も「…さん」呼称のおかげもあって、昔の上下に関係なく和気藹々でスムーズに進行します。

「うん、この『…さん』が伝統なんだ」としみじみ。



### 【3】 兼江会の歩み

東京支部 幹事 檀 繁雄

「兼江会ニュース」300 号発行の機会に、兼江会の発足から今日に至るまでの歩みについて、規約、名簿、活動の特記事項、兼江会ニュースについて以下整理の意味も含め振り返ってみた。

◇「兼江会」の発足は 1979（昭和 54 年）年 10 月 1 日である。

兼松の百松会（1947 年設立）、江商の社友会（1956 年設立）、そして 1967（昭和 42）年、兼松と江商が合併した後の兼江会（1967 年設立）の 3 つの組織が合流し一体化、新たに「兼江会」として発足した。

#### 【I】 規 約

##### 1）発足当時の規約 （1980 年 11 月 1 日 発行の最古の会員名簿より）

「前書き」 百松会、社友会ならびに兼江会の 3 者が合流して一体化となり、1979（昭和 54）年 10 月 1 日を期して新たに発足した機会に、この規約を制定する。

第 1 条 この会は兼江会と称する。

第 2 条 この会は会員相互の親睦を図り、また兼松江商(株)との緊密なるつながりを保つことを目的とする。

第 3 条 この会の会員は兼松株式会社、江商株式会社、兼松江商株式会社を退任した役員、  
参与及びこれらの会社に永年勤務し、円満退職した従業員にて入会を希望し、役員会の承認を得たものとする。

第 4 条 この会は下記の役員を置き会務を処理する。

1. 会長：1 名、 2. 幹事：東京、大阪、名古屋地区に若干名、 3. 会計監事：1 名  
以上のほか相談役、顧問をおくことができる。

第 5 条 会長、幹事は総会において選出する。代表幹事及び常任幹事は幹事の互選により選出する。  
幹事の任期は 2 年とし、重任を妨げない。

第6条 この会は毎年1回定時総会を開催する。必要に応じ臨時総会を開催することができる。

第7条 この会は懇親会又はその他の行事を行うことができる。

第8条 会費は年3,000円とする。必要に応じ臨時会費を徴収することができる。

第9条 この会の費用は会費ならびに兼松江商(株)その他の寄付金をもってあてる。

第10条 この会の会計年度は4月より翌年3月までとする。その収支計算は年1回定時総会に報告するものとする。

第11条 会員の慶弔などに関する事項は別に定める。

第12条 この会の本部を兼松江商(株)東京本社総務部内に、支部を大阪支社、名古屋支社総務部内に置く。

第13条 この会の事務は常任幹事が担当し、必要に応じ、兼松江商(株)東京、大阪、名古屋各店総務部の援助を求めることができる。

第14条 本規約を変更せんとする場合は総会の決議によるものとする。

(付則) 第1条 相談役は役員会の推薦するものとする。

第2条 顧問は兼松江商株式会社社長および総務担当役員とする。

## 2) 規約の変更の変遷

・1981年11月1日；

第8条 会費は年3,000円とする。ただし、地方に居住する会員の年会費はその半額とする。  
満77歳以上の会員の年会費は徴収しない。

(付則) 第3条、第8条の地方とは、次の地域以外をいう。

東京本部・・・東京都、神奈川県、千葉県、茨城県、栃木県、埼玉県  
大阪支部・・・大阪府、京都府、滋賀県、奈良県、和歌山県、兵庫県  
名古屋支部・・・愛知県、岐阜県、三重県

・1994年11月1日；

第8条 会費は年4,000円とする。

・2000年11月1日；

第8条 満77歳以上の会員の年会費免除規定の廃止。

・2001年11月1日；

冒頭に記されていた「前がき」を削除。

第3条 入会資格の範囲を変更。「この会の会員は兼松(株)、江商(株)、兼松江商(株)を退職したもので、入会を希望し役員会の承認を得た者とする」と緩和した。

・2003年11月1日

第8条 満88歳を過ぎた会員の年会費は翌年度より免除する。

・2012年10月1日

第8条 会費は年3,000円とする。

## 【II】 会員名簿の発行

### 1. 会員名簿発行

1980年11月1日：第1号発行。

1980年～1998年：毎年11月1日発行。1999年は発行せず

2000年～2006年：隔年11月1日発行。

2008年以降：隔年10月1日発行、今日に到る。

## 2. 年間異動分集約発行

2001 年 11 月、2003 年 11 月、2005 年 11 月、2008 年 1 月、2009 年 10 月。

但し、2011 年 10 月、2013 年 10 月は兼江会ニュース 279、287 号の内部に挿入

## 3. 縁故者名簿の発行

1992 年 11 月 1 日～1997 年 11 月 1 日まで。（物故社員の縁故者氏名を中心に編纂したもの）

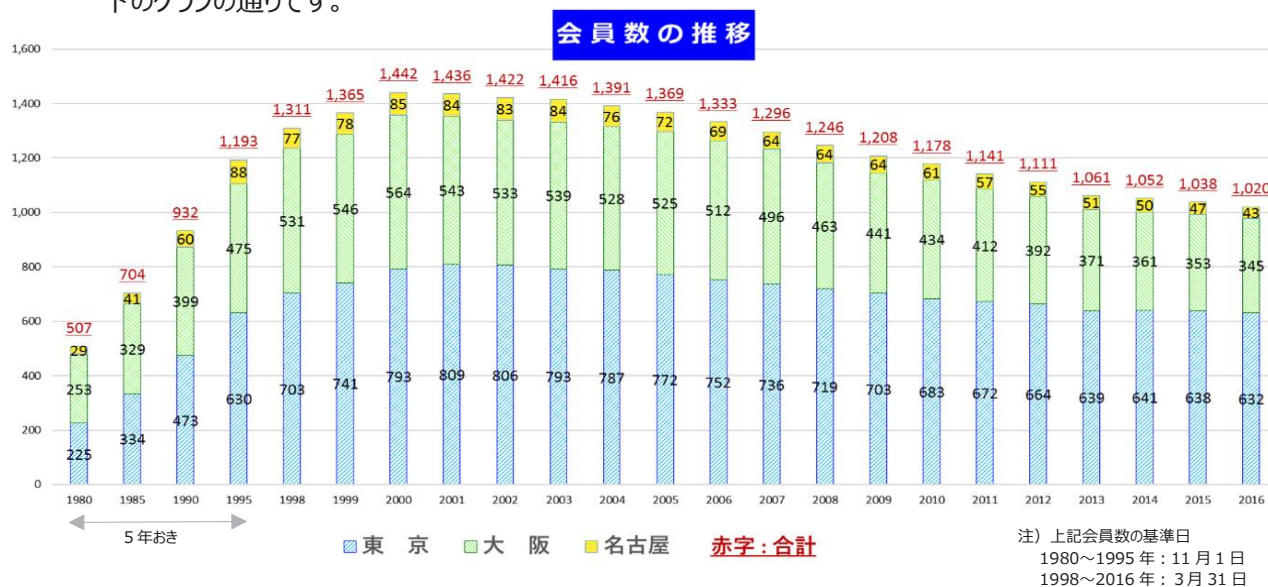
## 4. 物故者名簿の発行

1998 年 11 月 1 日～現在まで。（物故社員の氏名を中心に編集している。）

\* 上記 3. 4. と「会員名簿」の末尾に記載している。）

## 5. 兼江会 会員数の推移

1980 年から現在までの、東京・大阪・名古屋支部および海外・地方会員を含めた会員数の推移は下のグラフの通りです。



## 6. 兼江会の内規

・2002 年 11 月 1 日発行の会員名簿から掲載している。

## 【Ⅲ】 兼江会活動における特記事項

### 1. 一般会員からの寄付金の募集

兼江会の基金の充実を図るために、77 歳以上の年会費免除者を含む一般会員に対して年会費とは別に寄付金の協力をお願いした。その結果 1994 年度から 1996 年度の 3 年間に、432 人の会員から 4,895 千円という多額の寄付を頂いた。

### 2. 1995 年 1 月に発生した「阪神淡路大震災」の罹災会員に総額 500 千円の見舞金を兼江会の基金からお支払した。

## 【Ⅳ】 兼江会ニュースの発行

### 1. 現存している最古のニュースは第 34 号で、その発行日は 1982 年 9 月 1 日。

これから類推して第 1 号の発行日は兼江会の発足後間もない 1979 年 12 月 1 日とみられる。因みに第 34 号は B5 判 1 枚で、内容は、1. 訃報 2. 新入会員 3. 会員の近況 4. 住所の変更 となっている。



## 2. 「兼江会ニュース」232号（2000年1月20日発行）の「構造改革」時の記事

---

1999年11月1日に、倉地正社長から兼江会の幹部（中島会長、三支部の代表幹事、東京支部の常任幹事 計6人）に対して直接お話があった。その内容は次のとおりである。

- （1）三銀行による債権放棄の決定。
- （2）縁故募集による増資の成功
- （3）予定人数を上回る希望退職の実績

の報告があり、更に2000年3月までに、シーバンスN館の賃借面積を二分の一あまり返還する、ことなど会社再建計画の実行に関連して、兼江会の運営を自主的にやっていただきたい。

三支部の役員会で慎重に検討した結果、再建計画の達成が最優先事項であり、会社の再建が成るまでは我々OBとしても全面的に協力するべきである。その間兼江会の活動が低下しても已むを得ない、との結論に達し、11月30日に会社の要請を原則として受け入れる内容の返事を文書で提出した。

実務的に未だ細部の打ち合わせが完結していない立場であるが、現在決定していることをお知らせする。

### ① 事務局

- 1) 本部、東京支部の事務局は、京橋二丁目にある「兼松ビル」内の中央管理事務所の一角に移転。  
（既に1999年12月7日に移転済み）
- 2) 大阪事務局は、支部会員の入江一雄幹事の個人事務所に移転。（2000年1月）
- 3) 名古屋は花田常任幹事の自宅とする。

人員 各地ともすでにKG専担者はいない。原則として、兼江会の役員がボランティアとして会務を執り行っている。

### ② 経費 通信費は全額兼江会が負担する。その財源を捻出するための対策として

- 1) 例会の開催を年2回とする。
- 2) 兼江会ニュースの発行を、隔月から3か月ごとに変更する。
- 3) 同好会の活動費を全額受益者負担とし、兼江会からの補助金支出を中止する。
- 4) 77歳以上の会員からも、年会費をいただくことを検討する。（2000年度から）  
などが考えられている。

### ③ 事務局への連絡 緊急の場合は、各支部の兼江会役員に電話乃至FAXで行う。

会員の皆様のご理解とご協力を切にお願いします。

---

## 3. 「兼江会ニュース」のトピックス抜粋

### ➤ 234号（2000年6月16日）

紙面をA4判に拡大しページ数も増やしてニュースの充実化を図った。

### ➤ 236号（2001年1月19日 新世紀 第1号）

会長ならびに三支部代表幹事の年頭の挨拶を初めて掲載した。これは、今日まで続いている。

➤ 238号（2001年6月21日）

新旧の兼江会規約の対照表を折り込みで配布した。東京支部懇親会（2001年5月25日）の出席者リストを初めて添付。今日まで続いている。新規出席者数を増加させるのが狙い。当日は会員112名、会社側13名計125名の参加があった。

➤ 239号（2001年10月18日）

「会員の投稿欄」を新設した。鈴木英夫会員（New York World Trade Center 崩壊）、原 信之助会員（運命のいたづら）の投稿があった。

その後、大勢の会員から、エッセイや俳句の投稿が今日まで続いています。

➤ 269号（2009年4月1日）

兼江会会員用掲示板の開設と利用方法のご案内

➤ 287号（2013年10月29日）

同年10月1日からホームページ（HP）を開設

➤ 289号（2014年4月30日）

本号より毎号の目次に「インターネット掲示板、ホームページ便り」を掲載

➤ 291号（2014年10月29日）

KG創業125周年特集を掲載

➤ 293号（2015年4月30日）

Kanematsu 特別号 祝！125周年記念 1989～2014 この四半世紀を振り返る。

## 【V】 数字で見る兼江会諸制度の変遷

上記にて説明済みの内容も含め、兼江会諸制度の変遷を数字で示した資料を巻末(P.44,45)に添付致しますので、ご一読ください。

### 【あとがき】

#### その-1.

「一度解散したら、二度と再出発出来ないよ。兼江会を続けよう！」

1999年の11月下旬に、兼江会の実務担当責任者であった小生が、当時の中島豊太郎会長に「兼江会は解散するのですか？」と尋ねた時の会長の答えであった。更に続けて「一度解散したら、会社が立ち直ったからといって、再び会員に声を掛けても集まらないよ。苦しくても頑張っ続けよう。君、やってくれよ」とのことであった。

それから小生は迷うことなく、一途に会の継続に全力を傾注した。

#### その-2.

双日（株）が発足してからのこと。元日岩の首脳部の一人であったK氏が、ある日の夕方東京駅の近所で、鈴木英夫さんにばったり出会った。「鈴木さん！ 今頃何処へ行くの？」

「今晚、会社のOB会があるのでそれに出席するのだよ」「へー？鈴木さんのところはOB会があるの？いいなあ！ うちは何もないよ。羨ましい！」この話を鈴木さんから聞いてますます兼江会を発展させなきゃとの思いを強くした次第である。

## 【5】同好会

### ◇ ワイン同好会

「兼江会ニュース」が 300 号を迎えられますこと、まずはお祝い申し上げます。

ワイン同好会は兼江会ニュースに先立つこと一昨年の 2013 年 12 月 25 日に第 300 回を迎え、昨年の 12 月には第 333 回となりました。

毎回楽しむワインの産地はやはりフランス、イタリアが中心となり、他にヨーロッパではドイツ、スペイン、ポルトガル、ヨーロッパ以外ではアメリカ、オーストラリア、南米のチリなどとなっています。

毎回楽しむワインに関して、産地、葡萄の種類、夫々のワインの特徴などもお知らせしており、その葡萄に関しては、赤ワインの主たる葡萄としてフランス・ボルドー地方原産のカベルネ・ソーヴィニヨン、メルロー、ブルゴーニュ地方のピノ・ノワール、イタリアのピエモンテ州のネッピオーロ、トスカーナ州のサンジョヴェーゼ、また白ワインではフランス・ボルドー地方、ロワール地方のソーヴィニヨン・ブラン、ブルゴーニュ地方のシャルドネ、ドイツのリースリング、イタリアのピノ・グリージョなど代表的な品種のワインも度々楽しんでおり、皆さんそれなりにワイン通にもなっております。

そして、こうして毎回楽しみながら覚えた？ワインの味を試す 7 月と 12 月の「ブラインド・テイasting銘柄当て」ではそのテイastingの力を発揮して多くの方が賞品を獲得されています。皆さん方は、お家族、ご友人とワインを飲むときにそれなりに、葡萄の種類、ワインの色合い、味などを披露されて悦に行っているのではと思われます。何れにしろ、基本的には「ワインを楽しむ集い」ですから、ワインの講釈を云々するようなことはなく、参加の皆さんは現役時代には余り話もしなかった先輩、同僚、後輩との思わぬ接点のあったことを楽しんだり、またワインのことを良く知っているゲストの方々との話にも楽しんでおられます。

と云うことで、皆様、是非お気軽に参加されるようお待ちしております。一度、どんなことをするのか見に来て頂くのも良いかと思います。



以下 7 月参加の方々のお名前をご参考までに記します。（敬称略）  
池田知之、板倉俱宣、伊藤道代、井上 稔、太田欽也、大島季子、荻野千代、上村征四郎、川路義文、川目智子、寒竹一太郎、木下 昇、久保 優、幸道寛和、小畠正徳、小松千恵子、斎藤芳枝、佐藤玲子、鈴木 栄、瀬能正実、田所克往、中村恭一、中浜利生、中山重晴、長山 樹、芳賀芳男、荻野俊晴、原 一男、原木雄介、藤原 雄、樋口道子、藤井和佳、宮崎裕子、茂木孝一、山田哲士、山本りか

（以下ゲスト）岩倉弘記、内山雅博、島 亨、野澤滋為、牧野成吾、高沢優子、水田里美、吉田卓男、吉田裕



世話人： 樋口道子 佐藤玲子  
幸道寛和 茂木孝一 小畠正徳



## ◇ ゴルフ同好会「あやめ会」

「兼江会ニュース」300 号記念号の発行おめでとうございます。近年は紙媒体だけでなく Web の活用により迅速でカラー情報も見られるようになり、関係各位のご尽力に敬意を表します。

さて、ゴルフ同好会「あやめ会」も原則年 2 回の開催で、76 回を重ねることとなりました。高齢化と会員の減少という問題はありますが、自然の中で新鮮な空気、何よりも気さくな仲間とプレーができ若さを保つ秘訣ではないかと思う次第です。

「あやめ会」も 100 回、200 回と回が重ねられるよう幹事一同頑張る所存ですが、皆様もどうぞ、ゴルフ仲間に声掛けを頂きメンバー拡大にご協力を頂きますようお願い申し上げます。

さて、直近の第 76 回の「あやめ会」ゴルフコンペが、10 月 25 日（火）麻生カントリーにて開催されました。爽快な秋晴れの下、ご参加の皆様には心ゆくまでプレーをお楽しみいただけた事と確信いたします。

下記の通り結果を発表させていただきます。



上位 入賞者	氏 名	グロス	ハンディ	ネット
優 勝	梶原久雄	94	22.8	71.2
準優勝	渥美事三	93	21.6	71.4
三 位	稲垣 洋	98	25.2	72.8
ベストシニア	小澤 宏	101	25.2	75.8

参加者（五十音順、敬称略）

渥美事三、稲垣 洋、市丸幸男、扇谷竹美、岡田武人、小澤 宏、親松逸雄、梶田順久、梶原久雄、加茂隆曹、川路義文、北川広敏、香坂孝史、幸道寛和、今 清征、佐藤義明、清水 宇、庄野一夫、高木敬治、田中 稔、中町昭道、原 一男、疋田義明、古橋東作、本間鉄也、前野良一、水時功二、矢次正幸、箭本 知、横井知雄

次回第 77 回のコンペは 2017 年 5 月 9 日（火）を予定致しております。

久しぶりに会えるあの顔この顔とのコミュニケーションを大切に育む場として是非ご活用ください。  
より多くの皆様の積極的なご参加でコンペを盛り上げていただきますよう、ご協力をお願い申し上げます。



幹事： 扇谷 竹美 (tmogitani@ybb.ne.jp)      本間 鉄也 (tyhonma@catv296ne.jp)  
横井 知雄 (tomo451@hotmail.com)